

■採択年度（タイプ・申請区分）

【ASEAN 対象】 □H23（A-Ⅱ） ■H24（Ⅰ） □H24（Ⅱ） 【AIMS】 □H25／ 明治大学

■プログラム名

日本 ASEAN リテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

■相手大学・機関

インドネシア大学（インドネシア）、バンドン工科大学（インドネシア）、ラオス国立大学（ラオス）、マラヤ大学（マレーシア）、マレーシア工科大学（マレーシア）、フィリピン大学ディリマン校（フィリピン）、アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）、デ・ラ・サール大学（フィリピン）、シンガポール国立大学（シンガポール）、チュラロンコン大学（タイ）、シーナカリンウィロート大学（タイ）、キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）、カセサート大学（タイ）、泰日工業大学（タイ）、ハノイ貿易大学（ベトナム）、ハノイ国家大学外国語大学（ベトナム）、ホーチミン市国家大人文社会科学大学（ベトナム）

■主な活動内容（概要）

・海外教育拠点である「明治大学アセアンセンター(MAC)」をバンコクの協力大学（シーナカリンウィロート大学）内に設置、タイの複数の協定校と長短期の様々な学生交流プログラムを展開している。アセアンセンターを活用することにより、日本人学生には「東南アジアの文化や社会を学ぶ機会」を提供するとともに、ASEAN 側の学生には「日本の言語や文化を学ぶ機会」や交換留学生の渡日前教育も提供することが可能である。

■プログラムの現状・課題、成功事例

現状・課題

1. 2013年5月のアセアンセンター開設以来、現地には常駐スタッフを配置し、日本人学生を対象とした受入プログラムのコーディネート、日本留学フェアへの参加、日本人留学生への生活サポートやタイ語の学習支援等を実施している。
2. 昨今のタイ国内情勢に関して、危機管理上の課題が生じている。現在、センター常駐スタッフが現地最新情報を日本にいる関係教職員にメールで連絡、滞在している日本人学生に対しても、危険情報を携帯電話に配信する等して危機管理を実施している。

成功事例

1. 夏季休業中に実施された短期プログラムの参加学生が、その経験を通じ現地により興味を持ち、次年度の交換留学の行き先としてタイの協定校を選択した事例が複数みられる。
2. TV会議システムを活用した遠隔授業を今年度より開設。タイの言語と文化について、センターに常駐している教員を講師とし、本学学生が日本側キャンパスで受講している。
3. 2013年度に理工学研究科建築学専門課程「国際プロフェッショナルコース」(I-AUD)が開講され、完全英語教育による実務型リーダーの養成を実施している。アセアンセンターにおけるワークショップなどを通じて、国際感覚を養い、文部科学省の奨学金制度「トビタテ！留学 Japan」に3名が合格した。

